



▲名物となった上椎葉ダムからの花火。

椎葉夏祭り花火大会

7月30日、椎葉中グラウンドで第14回椎葉夏祭り花火大会が行われました。会場には村内外から千人を超える人が訪れ、村内外の太鼓5チームの勇壮な演奏など多彩な催しを楽しみました。

また、恒例の上椎葉ダム堰堤から打ち上げられた花火2千発は、色鮮やかな大輪の花火と山々にこだまする大音響の迫力で、会場や周辺にいた多くの見物客を圧倒していました。



▲保護者の指導で火入れ体験。

「このヤボに火を入れ申す…」

8月4日、尾向小（児玉和盛校長 児童29人）で第17回子ども焼畑体験学習が行われました。今年は、地元住民の協力で提供された学校の上に位置する30アールの斜面で実施。児童全員で「このやぼに火を入れ申す。へび、わくど、虫けらども、早々に立ち退き給え。」と神事を行った後、保護者の指導のもと火入れを行いました。

火が消えた後はソバの種蒔きを行うなど、児童は汗をいっぱいかきながら急斜面で一連の作業を体験。地元の伝統文化を学びながら10月に行う収穫祭を楽しみにしていました。



▲勢いよく昇る炎と煙。9月にソバの花が咲き、10月が収穫予定です。

伝統農法「焼畑」を守る

8月5日、椎葉勝さん（向山日添）の所有する40アール山林で焼畑が行われました。勝さんは、農林業と民宿を営みながら50年以上に渡って毎年焼畑を行ってこられた椎葉秀行、クニ子さん夫妻の長男。現在、後継者として焼畑の伝承活動に取り組んでおられます。

今年は親戚や地域の方々の協力を得ながら火を入れ、約1時間半ほどですべて焼き尽くしました。勝さんは神事から火入れ、種蒔きといった一連の伝統農法を守り続ける貴重な存在。「今後は仲間数人と守る会を作って、大切に受け継いでいきたい」と目を輝かせていました。



▲黒木守さん宅で無農薬のミニトマトを収穫、試食した子どもたち。

J A「ちゃぐりんフェスタ」

8月5日、本村の農家などでJA日向椎葉支店主催の「ちゃぐりんフェスタ」が行われました。これは、同支店女性部（山中サナエ部長 会員360人）の活動の一環でもあるイベントで、村内の小学生を対象に農業体験などを通して、食糧や命の大切さを知ってもらおうというものです。

村内から参加した小学生18人は、「発見！知る！つくる！」というテーマのもと、黒木守さん（仲塔）宅のハウスでミニトマトの収穫を体験したり、自分で作るおにぎりコンテストを行ったりしました。これからの時代を担う子どもたち。今回の体験で、お互いの交流を深めながら農業と食糧の大切さを学びました。

